

第 12 期の活動状況について

資料2-1
科学技術・学術審議会
人材委員会（第105回）
令和7年1月22日

人材委員会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 12 期の活動実績は以下のとおり。

- ・ 博士後期課程学生への経済的支援の充実とキャリアパスの多様化や、産業界における活躍促進について、関係者からヒアリングし、国や大学、産業界が取り組むべき事項等を検討した。
- ・ 研究人材の流動性と安定性の両立に関する WG を開催し、研究者等の雇用状況調査も含め、現状と課題を整理し、各機関の対応策を論点整理として、さらに「若手研究者へのメッセージ」をとりまとめた。また、URA や技術職員等の研究マネジメント人材も含めた多様な研究人材の育成・確保に係る WG を開催し、課題の整理と今後の在り方をまとめた。
- ・ 今後の科学技術・学術分野における人材について、目指すべき理想像等を検討し、2050 年を見据えた「シン・ニッポンイノベーション人材戦略」をまとめた。
- ・ 上記も踏まえつつ、今後の科学技術・人材政策の基本的方向性を検討し、審議の経過や主な意見、今後の検討課題を議論まとめとして、とりまとめた。

（第 71 回総会で報告した活動） 第 71 回総会資料から転記

第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、科学技術・イノベーション人材の育成・確保策について、審議を進める。

具体的には以下について、若手研究者や大学、企業等に対するヒアリングを実施しつつ検討する。

- ・ 博士後期課程学生への経済的支援の充実とキャリアパスの多様化について
- ・ 産業界における博士人材の活躍推進について

また、労働契約法の無期転換ルール of 10 年特例が施行されて 10 年が経過したことや、大学・研究機関における研究開発マネジメント業務が一層多様化・高度化していることを踏まえ、以下については委員会の下部に WG を設置し、より専門的に議論を行う予定である。

- ・ 研究人材の流動性と安定性の両立について
- ・ URA 等の研究開発マネジメント人材や技術職員の育成・確保について